



2011年1月25日  
編集・発行: (財)日本国際協力システム  
〒162-0067  
東京都新宿区富久町10番5号  
新宿EASTビル  
Tel: 03-5369-6960  
Fax: 03-5369-6961  
E-mail: jics@jics.or.jp  
http://www.jics.or.jp

## 援助をカタチに

財団法人 日本国際協力システム  
**JICS** Japan  
International  
Cooperation  
System

# JICS Report

JICSの実施事業を、毎回、テーマを絞りこんで紹介する広報誌。年4回(1・4・7・10月)お届けします。



▲photo: 上から  
●施工中の施設を視察する仲谷理事長(左、ケニア)  
●コミュニティ開発支援無償一学校の竣工(ニジェール)  
●紛争予防・平和構築無償一地雷除去(カンボジア)

## 新年のごあいさつ

謹んで新年のお慶びを申し上げます。旧年中は、ひとかたならぬ御厚情を賜り、誠にありがとうございました。

日本経済や私たち日本人の暮らしが、開発途上国を含む海外に依存する状況が進む現代では、日本における国際協力の重要性はさらに増していくと考えられます。

このようななかJICSは、これまで培ってきた国際協力における調達業務、とりわけ国際調達の経験を活かし、援助を適正かつ効率的に、見えるカタチにするService Providerとして、皆様方のお役に立てるよう一層の努力をまいります。

2010年末、スーダンおよびケニアを訪れ、就任して初めてプロジェクト現場を視察する機会を得て、現地のプロジェクト関係者と意見交換を行ってきました。今回得た教訓や気づきの点を今後の事業運営に活かして、JICSのVISIONの実現に取り組む所存です。

本年も引き続きご指導・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

理事長 仲谷 徹

## 特集

### 仲谷 徹理事長 スーダン・ケニア視察レポート

理事長就任後、初の現場視察となったスーダン・ケニア出張(2010年11月13～21日)について、ご報告します。

## Topics

- 増加する環境プログラム無償案件
- コミュニティ開発支援無償
- 紛争予防・平和構築無償—カンボジア
- 平成22年度 JICS NGO 支援事業  
活動報告・意見交換会を開催

# 仲谷 徹理事長 スーダン・ケニア 視察レポート

2010年11月13～21日、仲谷 徹理事長が、プロジェクトサイトの視察および関係者との意見交換のためにスーダンとケニアに出張しました。同年9月の理事長就任後、初となった現場視察の主な内容をご報告します。



## スーダン：戦後日本の復興を伝える

最初に訪れた南部スーダンは、南北包括和平合意を経て2005年10月に南部スーダン政府が樹立され、ジュバ市を首都とした新しい国造りが進められています。そして、2011年1月には独立の是非を問う国民投票が予定されています。ジュバ市内では、炎天下を多くの車が行き交い、日々、道路や電気などの整備が進められ、国造りの最中にある活気を強く感じました。

南部スーダンに対して日本政府が実施している紛争予防・平和構築無償「ジュバ職業訓練センター拡張計画」および「ジュバ市道路橋梁整備計画」に、JICSは調達代理機関として関与しています。南部スーダンでは、両案件の対象サイト7カ所すべての視察を行うとともに、関係者との意見交換の機会を得ました。

意見交換では、第二次世界大戦後における日本の復興の経験を繰り返し伝えました。日本も、戦後はさまざまな国々や機関からの支援を受けつつ、復興への歩を進め現在に至ったことを強調したうえで、今度はこの経験をもとに、日本が国造りの過程にある国々を支援する責任を果たす番であると考えていることを伝えました。

また、これら二つの案件の主役はあくまでも南部スーダンの方々であり、案件の実施に当たり、同地域の住民の皆さんが主体性をもって取り組んでいただくよう、お話ししました。先方の関係者は私の話に強く共感してくださり、主体的に取り組む姿勢を示していただき、心強く感じられました。

また、職業訓練センターでは現在、老朽化した施設・教材しかない状況で、今あるものを活用し懸命に教育が行われていました。この様子を見

て、本案件で予定している施設・教材の整備は次世代の育成にも資するものであり、これから長い間、南部スーダンの発展に貢献するとの確信をもつとともに、本案件が成功裏に進むべく最大限のサポートを行う決意を新たにいたしました。

道路や橋梁の整備については、既存の施設には大きな陥没が生じた箇所などもあり、日々の経済・社会活動にも悪影響を及ぼしている状況を目の当たりにし、国造りの生命線の一つでもあるインフラとして、整備の緊急性・重要性を強く認識した次第です。

## ケニア：広範囲にわたるサイトの状況を確認

ケニアにおいては、環境プログラム無償「気候変動への適応のためのニヤンド川流域コミュニティ洪水対策計画」に係る関係者との意見交換、サイトの視察を行いました。本案件により建設を行う施設は76と数が多く、



仲谷 徹理事長







サイトも広範囲にわたっています。また、周辺住民の組織を主体とした洪水管理体制の構築を目的としているのも特徴です。

今回は、ケニア・ウガンダ・タンザニアにまたがるビクトリア湖近くに位置するキスム県のサイトを視察しました。日程の制限もあり視察は一部にとどまりましたが、完工した施設の状況、建設途中の施設の施工の様子など、さまざまな段階にあるサイトの確認を行うことができました。今後、技術面での支援と併せ、周辺住民の組織を主体とした施設の維持管理が行われ、長く活用されていくことが望まれます。

先方の政府関係者からは、先行して実施されたパイロットプロジェクトにより対象地域住民の意識が向上したことに加え、本案件でも同様な効果を期待していることが伝えられ、プロジェクトの意義を改めて確認いたしました。

### 「現場力」の 確立と活用を 目指して

今回の出張を通して、JICSの日々の活動に対して関係機関の方々から、非常に協力的であり、また、前向きな姿勢で取り組んでいるという評価もいただきました。しかし、これに安穩とすることなく、日頃から現地関係者との相互理解を一層深め、ほかの機関には真似のできない「現場力」を確立・活用できるよう、国際協力のService Providerとして、今後もさらに努力していく必要があると強く感じた次第です。



③



④

- ⑧：施工中の施設を視察（左、キスム）
- ⑦：完成した構造物を視察（右、キスム）
- ⑥：ファーストエイド講習を視察（奥の椅子、右から二人目、キスム）
- ⑤：現地視察の前に、案件の現状についてコンサルタントより説明を受ける（左、ケニア・キスム）
- ④：ケニア国水灌漑省の関係者との意見交換（右、ケニア・ナイロビ）
- ③：労働・公共サービス・人材開発省の担当局長と共に（右、ジュバ）
- ②：職業訓練センターの現状について、校長（当時）より説明を受ける（左、ジュバ）
- ①：職業訓練センター内のワークショップの現状を視察（左、スーダン・ジュバ）

## 増加する環境プログラム無償案件

日本政府が、開発途上国に対する気候変動対策支援の一環として実施している環境プログラム無償に関して、JICSは途上国政府の調達代理機関として、56案件（2010年11月末現在）の調達代理業務を実施しています。今回は、JICSが担当する案件のうち、主要な3つの対象分野について、概要をご紹介します。

## 太陽光を活用したグリーンエネルギー導入計画:30件

途上国における太陽光発電システムの普及に寄与することを目的としています。30に及ぶ案件で調達する太陽光発電関連機材のほとんどが、公共施設の駐車場や未利用の土地などを活用し、大規模な集中型太陽光発電システムを設置するもので、環境に配慮しつつも経済活動に必要となるエネルギー調達に苦慮している途上国政府から大きな期待が寄せられています。

太陽光発電システムの設置後には、ソフト面の支援として、システムに関する基礎知識、保守点検や維持・運営管理方法に関する研修や、再生可能エネルギー利用に関する啓発活動も行われる予定です。



▲ 空港の駐車場に太陽光パネルを設置予定（パラオ）

## 森林保全計画:13件

温室効果ガスの吸収源である森林を守り、増やしていくことによって、気候変動を緩和することを目的としています。

支援内容は、対象国の森林保全に係る対応の段階に応じて決定されます。対象国が初期段階にある場合は、森林保全計画の立案に不可欠な森林マップを作成するための植生状況の調査、関連基礎情報の収集・分析に必要な機材の整備などを実施します。また、対象国が中期段階以降にある場合は、森林保全計画の策定支援、森林モニタリングに必要な機材や、薪炭使用のための森林伐採の抑制を目的とした資機材の整備、自然保護区管理所の整備など、現地の状況に応じて幅広い支援が行われる予定です。また、研修などの技術支援も予定されています。



▲ マングローブや森の樹木などを材料にさまざまな研究が進められている（ガボン国立水森林学校）

## 気候変動による自然災害対処能力向上計画:13件

主にアジア・アフリカ諸国における、気候変動が原因と想定される洪水被害や干ばつなどの自然災害による被害に対する支援を目的として、災害後の被害者救済や復旧に必要な機材の調達などが実施される予定です。

また、気候変動の影響により今後、自然災害が発生する恐れがあると指摘されている国・地域に対する支援も実施される予定です。自然災害の発生時に、衛生的な飲料水が確保できず水因性の疾患や伝染病が蔓延することがないよう、安全な飲料水の確保に必要な給水用の施設・機材や、井戸掘削機材を整備したり、洪水に対する備えを強化する護岸工事に必要な機材などの整備、対象国における自然災害対策業務を所掌する部門の体制強化なども実施される予定です。



▲ エルサルバドル公共事業大臣（手前右）から、ハリケーン被災地の状況について説明を受けるJICS職員



## コミュニティ開発支援無償

# 各現場での困難を乗り越えて、学校が次々と竣工

貧困・飢餓・疫病など、人命や安全な生活への脅威に直面するコミュニティの総合的能力開発の支援を目的として実施されているのが、コミュニティ開発支援無償です。これに関して、JICSは開発途上国政府の調達代理機関として援助資金の管理を行うとともに、施設整備に必要なコンサルタント・建設会社などの役務の調達手続き、現場レベルでのプロジェクト監理を担当しています。

これまで、コミュニティ開発支援無償により学校の建設工事を実施してきたセネガル・ニジェール・ボリビア・ニカラグア・ベナンなどにおいて、校舎が次々と竣工しています。5つの州にわたる広い範囲に287教室を建設したセネガル、同じく建設範囲が広く国内3カ所に事務所を設置して対応したニジェール、エル・ニーニョ現象のために近くを流れる川が増水して道が寸断され資機材の搬入が困難を極めたボリビアなど、JICSでは各現場で発生するさまざまな困難にも対処しながらプロジェクトを推進してきました。



▲ 完成した校舎の前で、はしゃぐ子どもたち(セネガル)



▲ 引渡し式の準備のため、ぬかるんだ校庭に撒く砂を生徒が運ぶ(ベナン)



▲ 制服に身を包んだ生徒が真新しい教室に入る(ボリビア)



▲ 竣工式のテープカットを見守る生徒や保護者たち(ニカラグア)

## 紛争予防・平和構築無償—カンボジア

# カンボジア地雷除去活動強化計画

カンボジアには、紛争終結後20年近く経った現在でも、400～600万個の地雷が埋設されているといわれています。日本政府はカンボジアの地雷除去に対する支援の一環として紛争予防・平和構築無償「カンボジア地雷除去活動強化計画」を実施しており、JICSはこのプロジェクトに関してカンボジア地雷対策センター(Cambodian Mine Action Centre: CMAC)の調達代理機関として、現地調査の実施や役務・機材の調達、プロジェクト全体の進捗監理を担当しています。この案件は、カンボジア国内でも高度地雷汚染地域であるバタンバン州の対人地雷除去のために必要な機材の調達に加え、農地整備や農業訓練などの住民支援を行うものです。

2010年5月から実施中の住民向けの農業訓練と並行して、JICSでは地雷除去関連機材の調達手続きを進めてきました。8～9月には、これまで日本のODAにより研究・開発が進められてきた地雷除去機がカンボジアに到着し、使用方法および維持管理に関する研修を実施のうえ、現在では地雷除去作業で実際に使用されています。この地雷除去機の到着を記念し、12月21日、CMACバタンバン州事務所にて黒木雅文駐カンボジア国大使、ブラック・ソコン首相補佐特命大臣兼カンボジア地雷対策被害者支援庁(CMAA)副委員長、ヘン・ラタナCMAC長官、JICS坂本専務理事出席のもと、地雷の被害者や地域住民など数百名が見守るなか、引渡し式が盛大に開催されました。



▲ 地雷除去機について説明を受ける黒木大使(中央、白い服)



▲ 地雷除去機の前立つCMACとJICSの関係者



▲ 農業訓練を受ける地域住民

## 平成22年度 JICS NGO 支援事業 活動報告・意見交換会を開催

2010年10月22日、JICS会議室において平成22年度 JICS NGO 支援事業活動報告・意見交換会を開催しました。前半は、平成19～20年度に JICS NGO 支援事業の対象となった団体のうち10団体から、JICSの支援を受けて実施した事業の内容やその成果などの報告を受け、それに対してほかの団体や審査委員などから質問やコメントがなされました。後半の意見交換会では、ファンドレイジング（資金調達）のために、各団体が実施している取組みを紹介し合うなか、体験に基づくさまざまな意見が聞かれ、限られた時間ながらも有意義な内容となりました。

この会は、NGO 団体から活動の報告を受けるとともに、ほかの団体との経験交流および有識者の方々と意見交換する「学びの場」の提供を目的として、毎年開催しているもので、JICS NGO 支援事業の特長として高く評価されているものの一つです。

### <NGO 団体 具体的な活動／ファンドレイジングに関する考え方>（一部抜粋）

- 会員に関するデータ整理・分析を行い、ターゲットに合わせたアプローチ方法を策定した。
- 地元のアーティストに無償で出演してもらうコンサートを開催した（コンサートの前に団体の紹介ビデオを上映し周知を図った）。
- 国際協力ステージの開催。出演する人に3千円で6枚のチケットを購入してもらい、1枚は本人用、残りの5枚は友人に配布するなどして集客しパフォーマンスをしてもらった。
- ファンドレイジングは恋愛と一緒。支援してもらう人たちに好きになってもらう必要があるが、そのためにはまずこちらが相手を好きになるべき。企業から支援を受けたい時も、まずその企業を徹底的に調べ相手のことを知り、話を聞く機会をつくれるように努力することが大事。
- 大手企業ではなく地場の商店街や企業と連携することで、地域に根付いた、身の丈に合った活動ができるのではないかと。
- 地方にも社会に貢献したいという企業は必ずあると思うので、そこに巡り合う努力をしていくことが大事。



▲ 活動報告（上）と意見交換会（下）

### 参加者一覧

**審査委員** ▶ 審査委員長 JICS 仲谷 徹理事長／外務省 国際協力局 民間援助連携室 山口 又宏室長／（独）国際協力機構 国内事業部 大金 正知次長／NPO 法人関西国際交流団体協議会 有田 典代前事務局長（JICS 評議員）／日本経済性評価研究所 平木 俊一所长（JICS 評議員）

**NGO 有識者** ▶ （独）国際協力機構 地球ひろば 市民参加協力アドバイザー 山崎 唯司氏／NPO 法人国際協力 NGO センター 元理事 山口 泰司氏／（財）国際文化会館 松本 洋理事（JICS 評議員）

**NGO 団体** ▶ NPO 法人 地雷廃絶日本キャンペーン／認定 NPO 法人 ラオスのこども／NPO 法人 NGO 福岡ネットワーク／NPO 法人 アクセス共生社会をめざす地球市民の会／公益社団法人 セカンドハンド／NPO 法人 テラ・ルネッサンス／アフリカ平和再建委員会／認定 NPO 法人 国際子ども権利センター（シーライツ）／ジュマ・ネット／認定 NPO 法人 地球市民の会

## NGO 紹介

このコーナーでは、これまでに JICS が支援した団体より、事業実施状況について報告していただきます。

## 初期治療の充実と公衆衛生の教育で、 地域医療を向上させる

【NPO 法人 インド福祉村協会】 IWVS: India Welfare Village Society

インド福祉村病院（現地名：アーナンダ病院）は、インド福祉村協会の現地医療活動の拠点として、1998年、インド北部に位置するウッタル・プラデーシュ州のクシナガラに近い農村地帯に建設されました。

この地域の住民は、先進医療を受けられないばかりか、初期治療や公衆衛生の知識・教育の普及も遅れています。そこで、院長であるグプタ医師を中心とした現地スタッフと、定期的に現地を訪れる日本人医師や多くのボランティアにより、地域の人々の医療環境の向上を目指し活動しています。

同地域はインフラ整備が不十分で電力事情が悪く、発電機によって必要な電力を賄っています。以前、発電機が老朽化して故障し、修理が終わるまで通電できない状況が続きました。いったん故障すると部品はすぐ

に調達できないため、自分たちで部品を作ったりして修理を行っていましたが、2009年2月に JICS の支援で新しい発電機を導入しました。これで安定した電力の供給が実現し、安心して医療活動ができるようになりました。

プロジェクト終了後の現在においても、1日あたり70～80人に上る患者さんに対し



▲ 地域住民の信頼も厚い、グプタ医師（右）の診察

て、グプタ医師とスタッフが治療にあたるとともに、衛生教育にも励んでいます。

### NPO 法人 インド福祉村協会

民族・宗教を超えて日本とインドの両国民が共通の価値観を共有し、互いに学び合うことを理念として、インド国における医療に恵まれない人々に対し、プライマリ・ヘルスケアを中心とする診療活動と保健衛生活動・教育を行い、両国の友好に寄与することを目的としている。  
<http://iwvs.web.infoseek.co.jp>

### JICS NGO 支援事業：2008年度

対象国：インド

支援事業の内容：活動地域における医療行為に必要な電力を得るための発電機を購入する。また、人的および資金的な支援を広く募るために行う広報活動に必要な機器を購入する。



# 伝統舞踊の教室で知ったラオス社会の光と影

松本 梨佳

業務第一部 施設第二課

2009年3月より、ラオスでコミュニティ開発支援無償の小学校建設案件を担当しています。ラオスは穏やかな土地柄で、伝統文化が静かに守られている魅力的な国です。

なかでも特に惹かれたのが、手の指・甲・手首をしなやかに反らせる優美な動きが特徴的な伝統舞踊です。着任当初より業務で精一杯でしたが、ここ半年ほど何とか時間をやりくりして週末にレッスンに通っています。教室では、先生の信念により子どもたちに無償で踊りや歌を教えています。のみ込みの早い子どもたちにも教えてもらいながら徐々にコツを覚え、憧れだったラオス舞踊を習得する喜びを感じています。

教室に通ってくる子どもたちはみな朗らかですが、家庭では貧困や家庭内暴力、

教育放棄などさまざまな問題を抱えているそうです。先生はそれに向き合いながら、子どもたちに希望を与えるべく懸命に活動しています。これらの問題は、近隣国からの情報・消費文化の大量流入、投資の増大などで環境が劇的に変化するなか、将来を担う子どもたちを育むべき家庭と教育が置き去りにされていることの一つの表れで、今後、ラオスがより精力的に取り組むべき課題であると感じています。踊りを学ぶことを通じて、仕事だけでは知り得なかったラオス社会の光と影を少しでも垣間見ている気がします。

関係者のご協力のおかげでプロジェクトは順調に進んでいます。小学校の建設がラオスの人々に役立つことを願いながら、最後までしっかりと自分の役割を務めたいと思います。



▲ ラオス舞踊の教室で、先生（後列、右）と生徒の子どもたちと



▲ 生徒の子どもに踊りを習う筆者

## リレー エッセイ



▲ 学校の外壁に並んだ、エチオピアと日本の国旗



▲ 新しい教室で先生の話聞く生徒たち

鮮やかな空色の学校と、おそろいのセーターを着た子どもたち。カメラに向かってポーズする子や恥ずかしそうな表情の子、元気に手を振る子など、さまざまです。エチオピア国アジスアベバ市の小学校で行われた竣工式当日の様子です。

私は学校建設などの施設案件に携っており、現在は主にエチオピアとマラウイの案件担当として、現地で施工会社などを選定する入札業務や案件監理業務を日本から後方支援しています。

アジスアベバ市の学校建設案件では全7校を建設中で、2010年9月までに、数校が完工し、そのうち1校の竣工式が盛大に行われました。出張した職員が持ち帰った写真には、式に出席したエチオピアと日本両国の政府関係者とともに学校の完成を喜ぶ生徒たち、ダンスを披露する現地の方々などが写っていました。写真を見るうちに、思わず顔がほころび、いつか子ども

たちが勉強している姿を、直接見てみたいと思いました。エチオピアでは子どもの数に比して学校や教室数が少ないため、二部制の学校もあって、教室の増設や学校の新設のニーズがまだまだあるようです。今後、子どもたちが少しでもよい環境で勉強する機会を得られるようになってほしいと思います。

マラウイの案件はまだ始まったばかりですが、今後、中等学校6校に教室を増設する予定です。現地企業を活用して行う施設案件は、日本の企業を活用する場合と比較すると、プロジェクト期間が長期に及ぶうえ、工程管理や質の確保のための配慮も必要となります。現場での苦勞も多いですが、現地の方々のご協力に感謝しつつ、完工時の喜びや達成感を楽しみに、これからもここ日本から現場をサポートしていきたいと思っています。

## はるか日本から、子どもたちの教育環境の改善をサポート

小林 麗子

業務第一部 施設第二課

## JICSの動き

### パキスタンとアフガニスタンに感染防止用ディスポーザブルガウンを贈呈

JICSはプロジェクト支援事業の一環として、2010年10月1日にパキスタン国立獣疫研究所、次いで同月16日にアフガニスタンの4医療施設へ、感染防止用ディスポーザブルガウンを贈呈しました。

今回、パキスタンとアフガニスタンには各々4,020着のガウンを寄贈しましたが、これらは株式会社エスアールエル※から提供されたものです。同社からガウン提供の提案を受けた際、これまでにJICSが関わった保健分野のプロジェクト対象施設に問い合わせたところ、両国から受け入れ希望があり、寄贈につながりました。

各施設では、さっそくガウンが使用されており、「鳥インフルエンザウイルスなどの



▲ パキスタンでのガウンの引渡し



▲ パキスタン国立獣疫研究所からいただいた感謝状



▲ ガウンに身を包んだアフガニスタン結核センターのスタッフ

感染を防ぐために非常に有効」「医療資機材が不足するなか、このような実用的な品をいただくことは非常に有益であり、感謝の念に堪えない」といった声が届きました。

※株式会社エスアールエル：受託臨床検査やヘルスケア関連事業を実施。特に臨床検査事業については、日本全国の1万を超える病院や診療所から毎日20万件以上の検査を受託。1970年創業、2010年3月31日現在の従業員数は2,201名。本社は東京都立川市。

### カンボジア商業省より勲章を受領

2010年10月12日、カンボジア商業省内において勲章の授与式が開催され、商業省大臣より黒木雅文駐カンボジア国大使とJICSスタッフに対し勲章の授与が行われました。勲章は「Sahametrei」というもので、カンボジア国王およびカンボジア国民のために特に外交分野などにおいて貢献した者に対し、国王の命により授与されるものです。

黒木大使に対しては、カンボジアに対す

る日本のODA事業の実施に謝意を示すものとしてCommanderランクに相当するThepadenの勲章を、また、JICSに対しては、カンボジア政府の調達代理業務を行っているノン・プロジェクト無償や「日本・ASEAN統合基金による東西経済回廊・南部経済回廊の物流促進プログラム」を担当した職員5人がOfficerランクにあたるSenaの勲章をいただきました。



▲ 商業省大臣から勲章を授与されるJICS職員

### 「国際協力キャリアフェア2010」に出展

2010年11月13日、JICSは「国際協力キャリアフェア2010」にブースを出展しました。このイベントは国際協力業界への就職・転職を考えている方を対象としたもので、JICSは2004年度以来、毎年出展しています。当日は、お立ち寄りいただいた方に職員が組織や業務の説明を行い、質問に

お答えしました。

JICSでは採用に関するご質問などを随時、受け付けています。下記までお気軽にお問い合わせください。

人事課 採用担当宛  
TEL:03-5369-6990  
FAX:03-5369-6961



▲ JICS職員が、業務内容などを詳しく説明

### お知らせ

#### ■「日本国際協力システム 年報2009」英語版発行

JICSでは、2010年11月12日に「日本国際協力システム 年報2009」英語版を発行しました。本書のPDFデータは、JICSの英語版ウェブサイト ([http://www.jics.or.jp/jics\\_html-e/profile/publications.html](http://www.jics.or.jp/jics_html-e/profile/publications.html)) にも掲載していますので、ぜひご覧ください。

#### ■2012年度 新卒・既卒者採用 エントリー受け付け中

2010年12月20日より、2012年度の新卒・既卒者採用に関するエントリーの受け付けを開始しました。JICSの事業にご興味をお持ちの方は、ぜひ日経就職Navi (<https://job.nikkei.co.jp/2012/top/>) の財団法人日本国際協力システムのページから、エントリーをお願いします。

